



高橋余一の「生活絵巻」

03 川合の渡し



〔時計回りに〕大樟の木、洞穴へ古いお神札が納められてゐた、水神様、清水、島崎か島先かとにかく日置うどんやが有名でうどんと云えば島崎だった、馬串山、兼山の烏ヶ峰、今渡の向川合

川合は、木曾川と飛騨川が合流する所です。合流する川と馬串山が見える位置関係にある場所に立っても「水神様」「大樟の木」「清水」は、絵のようにはありません。余一が古井の川べりにあるものを、木曾川と飛騨川の合流する風景にまとめて描いたと考えられます。描かれたものは「古井の日常」であり「暮らしの空間」です。

清水で洗う物をし、川で水をくみ、大樟の木を眺め行きかった川沿いの風景、祭られている水神様に脇を通るたびにいつも祈った、何げない日々がここにあります。

■ ムクノキ(川合町)
県指定天然記念物(樹齢600年)

